

第1章

都市の将来像

- 1 都市計画の理念
- 2 都市計画に関する基本的な考え方
 - (1) 守る × 伸ばす (メリハリ)
 - (2) まち柄 × アップデート
 - (3) コンパクト × ネットワーク
- 3 目標とする都市の将来像
 - (1) 活力・賑わい
 - (2) 暮らし
 - (3) 文化・景観
 - (4) 安心・安全

1 都市計画の理念

京都は、794年の平安京建都以来、都市としての変化・成長を連綿と続け、1200年以上の間、都市機能を遮断することなく存続してきました。その長い歴史は、先人達が戦乱や災害、社会の大きな変化など幾度もの試練に遭遇するたび、さまざまな人間的つながりのもとで知恵と力を結集し、守るべきものは守りつつ、ときには異なる文化や新たな技術も積極的に取り入れながらたくましく乗り越えた歩みでもあります。更に言い換えれば、それは時代に応じ常に個性のある「まち」を築いてきた、たゆまぬ「継承」と「挑戦」、そして「飛躍」の歴史です。

「守破離」の思想の具現化とも言うべき、こうした京都の誇りある歴史を受け継いで、伝統と革新、まちと自然、そして多様な文化など、ともすれば対立的に捉えられやすい事柄の調和あるいは融合を図りながら、未来に向けて京都のまちが世界の中で確かな存在感を持ち続けられる都市づくりに挑む。このことこそが、本市の都市計画の理念であると考えます。

本章では、この都市計画の理念の実現に向けた基本的な考え方や、目標とする都市の将来像を共有します。

2 都市計画に関する基本的な考え方

悠久を体現する山々に囲まれ、南に向いて平野部へと連なる盆地の中を清らかな川の流れが貫き、地下には琵琶湖に匹敵するとされる豊かな水量を誇る水がめを宿す。そのような地形的特性のもと、先人達は、自然と人間との根源的な不可分性や一体性を思想的土壌として、主体的な努力により京都のまちをその時代にふさわしく発展させ、千年の歴史を紡いできました。明治以降、周辺市町村の編入によって市域は大きく変容してきましたが、京都の地形的なかたちは、これから千年先の未来においても大きく変わるものではありません。そして、周囲の自然との共生を謙虚に志向する思想もまた、その時々によって変わることなく一貫して京都のまちの根底にあり続けています。こうしたまちのかたちや思想を今後も大切に守りながら、以下の視点により都市計画を進めていきます。

なお、本プランの目標年次である令和32（2050）年は、本市が温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指す目標年次でもあり、脱炭素社会の実現に向けた、自然環境との調和、資源やエネルギーの有効利用等の取組をあわせて推進します。

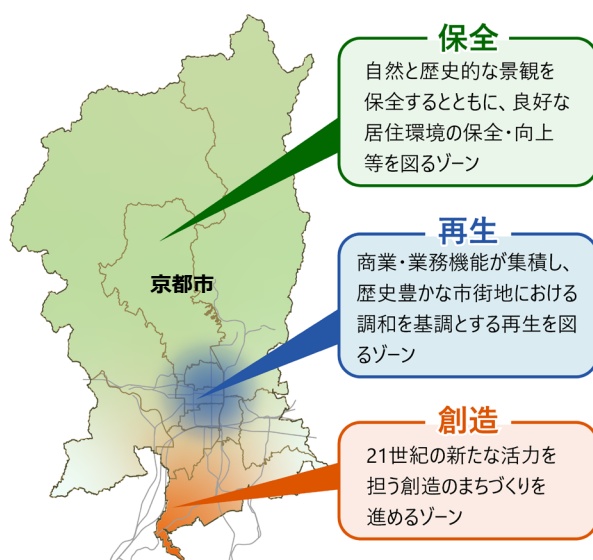
(1) 守る×伸ばす（メリハリ）

緑深い山々や美しい川の流れをはじめとする豊かな自然、京都ならではのまちの景観を大切にしながら、多彩な学術や技術、文化芸術が集積する「学藝の府」として本市が今後も発展を続けられるよう、守るところは守り、伸ばすところは伸ばす、バランスに配慮したまちづくりを進めます。

ア 「保全」・「再生」・「創造」のゾーンに大別

市街地の規模は拡大しないことを基本としつつ、市域を「保全」「再生」「創造」の3ゾーンに大別します。ただし、各ゾーンにおいて方向性を固定化するのではなく、個別のエリアの特性に応じ、景観・住環境・都市機能の3つの観点を考慮し、メリハリをつけながら、バランスの取れた土地利用を図ります。

■ 保全・再生・創造のイメージ



○ 保全ゾーン

三方の山々、文化財や史跡の点在する山麓部、ゆとりと景観に恵まれた地域一帯における、自然と歴史的な景観を保全するとともに、良好な居住環境の保全・向上等を図るゾーン

○ 再生ゾーン

伝統的な町家も数多く残り、商業・業務機能が集積し、歴史や文化が積み重なる市街地における調和を基調とする再生を図るゾーン

○ 創造ゾーン

次世代のための都市環境と都市機能の受皿となり、近隣都市とのつながりを創出しながら、創造のまちづくりを進めるゾーン

イ 山麓部から市街地内部にかけて段階的な空間構成

山々の景観をいかしながら、山麓部から市街地内部にかけて段階的な空間構成とします。

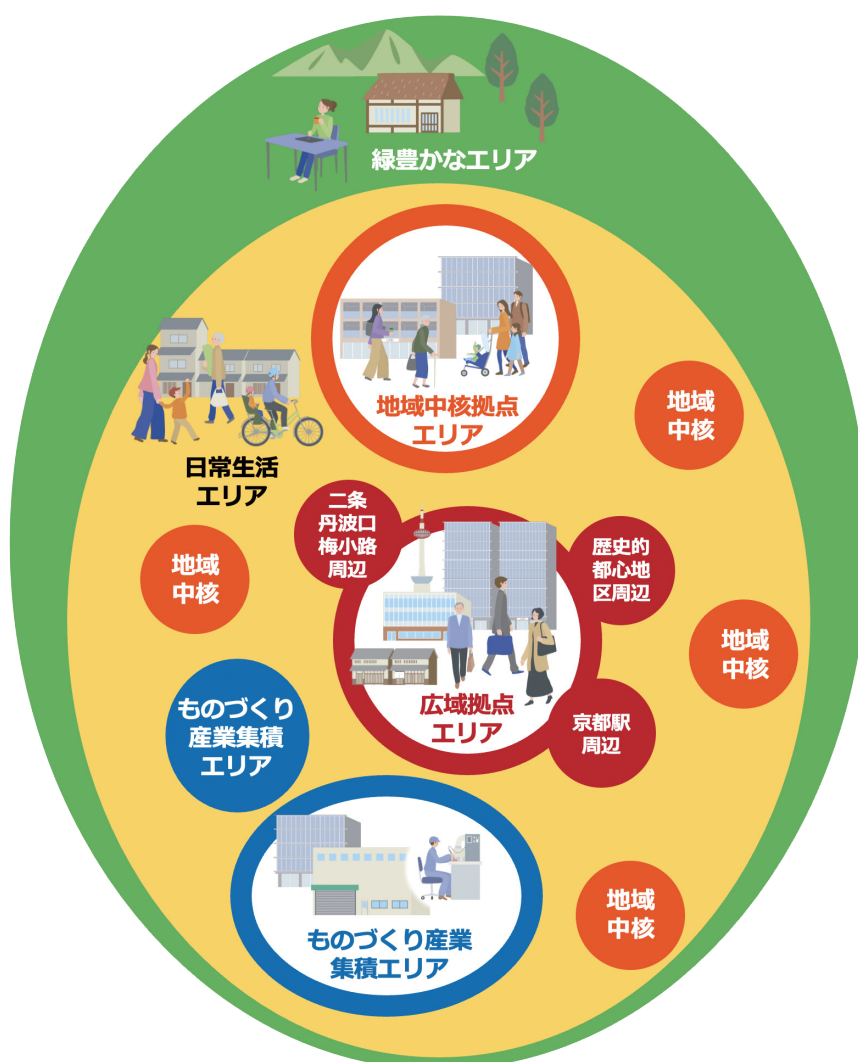
- 保全ゾーン：低層又は中低層を主体
- 再生ゾーン：中低層又は中高層を主体
- 創造ゾーン：中低層又は中高層を主体としつつ、環境にも配慮しながら高層も許容

※ 上記の考え方を基本としますがそれぞれのゾーンの中でも、個別に「保全」・「再生」・「創造」の考え方があります。例えば、再生ゾーンであっても、そのまち柄に応じて保全的な土地利用をする場所、創造的な土地利用を進める場所があります。

ウ 5つの地域分類

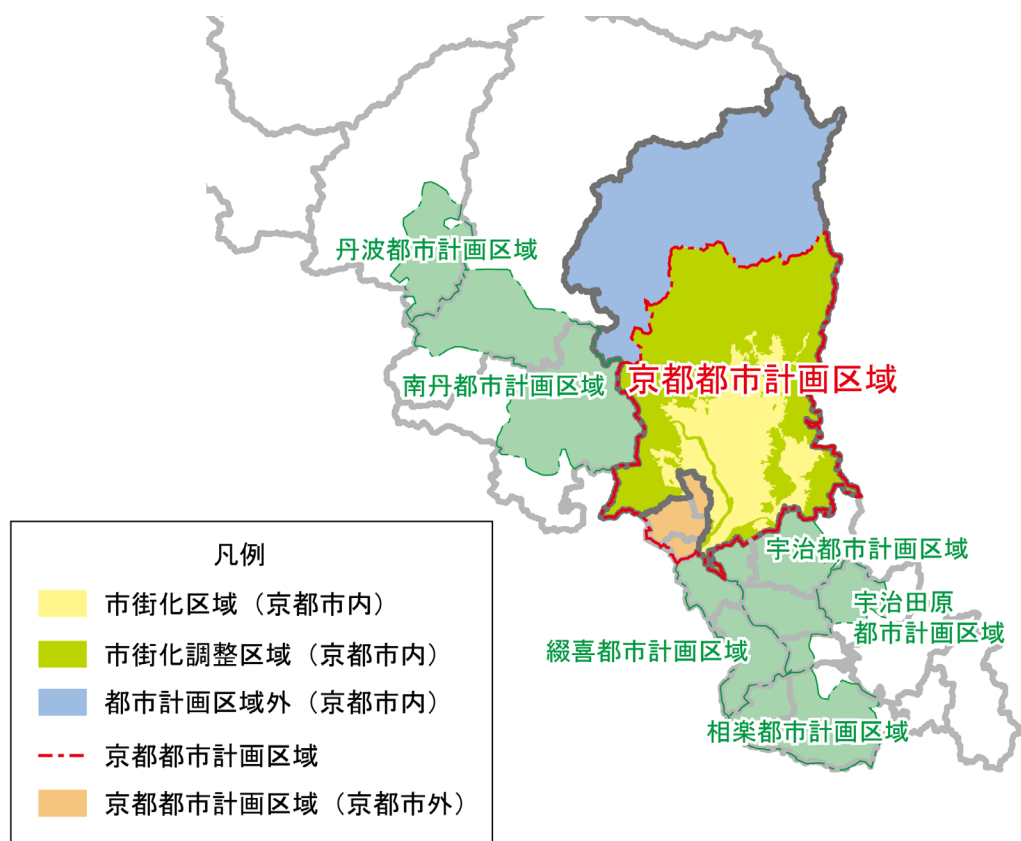
「保全」「再生」「創造」の土地利用を基本としながら、市内各地域の関係性を考慮し、市全体を5つのエリアに分類します。（詳細は、第3章を参照。）

- ① **広域拠点エリア（歴史的都心地区周辺、京都駅周辺等）**
国内外から訪れる人々の活動を支えるエリア
- ② **地域中核拠点エリア（周辺部等における地域の拠点）**
多様な都市機能が集積する地域の拠点となるエリア
- ③ **日常生活エリア（市街化区域（④を除く））**
多世代が安心・快適に暮らすエリア
- ④ **ものづくり産業集積エリア（工業地域、工業専用地域、らくなん進都等）**
京都にふさわしいものづくり産業を集積するエリア
- ⑤ **緑豊かなエリア（市街化調整区域、都市計画区域外）**
農林業の振興等により、地域の生活・文化等の維持・継承を進めるエリア



エ 都市の規模の考え方

人口の長期的な減少が見込まれる中、それに歯止めをかけることは、極めて重要な課題であり、そういった状況を踏まえながら次のとおり適切に区域を設定し、都市づくりを進めます。



① 市街化区域

人口動向を踏まえ、市街地の規模は拡大しないことを基本とします。また、将来的に整備予定のものも含めた都市基盤を最大限に活用し、都市づくりを進めます。

② 市街化調整区域

市街化調整区域では、特に人口減少と少子高齢化が進行し、農林業の後継者不足や地域の文化・コミュニティの維持が困難になるなどの状況が深刻化する課題が生じています。豊かな自然を守り、無秩序な開発を防止することを前提に、農林業や観光といった産業の振興などにより、地域の生活・文化などの維持・継承を図るとともに、既存集落をはじめとする地域の定住人口の確保や、産業用地を維持・創出するなど、地域の将来像の実現にふさわしい土地利用の誘導を図ります。

③ 京北地域をはじめとする都市計画区域外

京都市域面積の約4割を占める、都市計画区域外の京北地域や花脊などの山間部においては、長い歴史に培われた文化やコミュニティなどの地域の個性や自然・歴史的資源を十分に考慮して、森林・農地や景観の保全に努めるとともに、経済基盤となる農林業や歴史・文化、森林などの豊かな自然をいかした観光・サービス業などによる雇用の確保、定住・移住促進や住みやすさの向上を図ります。

(2) まち柄×アップデート

「自分たちのまちは自分たちでつくる」「自分たちのまちは自分たちで守る」。番組小学校設立などに象徴される、そんな住民自治の高い志が、市内各地域の個性あふれる特徴、いわば「まち柄」を形作ってきました。京都を京都たらしめている核心的な要素であり、日々の暮らしや、そして個性豊かな小商いをはじめとする生業など、各地域の日常の根幹を成すものであるこのまち柄をいかしながら、世界中の国や地域から突き抜けた人材が集まるまちづくりを進めていくことが重要です。

ア まち柄に応じたまちづくり

住宅、業務、商業、工業といった基本的な用途に加え、文化施設、学術施設、神社仏閣といった多様な用途が彩りを添える土地利用は、各地域のまち柄を色濃く反映しています。今後もこうしたまちの在りようが受け継がれ、また更なる発展が図られるように取り組んでいきます。

イ 職住共存、職住近接の追求

職住共存は、伝統産業を中心とした京都における基本的な生活スタイルでした。働き方や産業構造が著しく変化した今、そうしたスタイルそのものへの全面的な回帰は困難です。しかし、これからの時代に合った職住共存・職住近接の形を追求し、例えば徒歩や自転車利用の圏内で生活と仕事を両立できるまちは、目指すべき一つの姿です。まとまった域内で日々の営みを完結させられる暮らし方を望む人々に、活動の拠点として選ばれるまちを目指します。

ウ 社会の変化にあわせ適切にアップデート

古いものを取り壊し新たなものに作り替えるスクラップ・アンド・ビルドの考え方は、時として、価値あるものを末永く大切にす文化が受け継がれてきた京都のまちづくりにおいては、相応しくない場面もあります。建築物等が必要に応じて適切にアップデートされるよう取り組むことで、まちの魅力や活力の維持・向上を図ります。



(3) コンパクト×ネットワーク

港湾や空港がない本市では、鉄道や幹線道路が交通ネットワークの中で大きな役割を果たしています。それらを中心として形成された都市軸をいかしながら、京都ならではのコンパクトでまとまりがある、災害にも強いまちづくりを進めます。また、市内の様々なまち柄を持つ地域において、大学や企業、文化施設や図書館、文化財や史跡などが数多く立地していることをいかし、これらをつなぎ合わせるネットワークを人のつながりといったソフト面を含め強化することで、豊かな暮らしの実現を図ります。これにより、市民はもとより本市に関わる全ての人々が深い愛着を持って生活を送り、あるいは活動に打ち込むことのできるまちを目指します。

ア 多極型の都市構造、鉄道駅・幹線沿道等に都市機能を集積

鉄道駅などの公共交通の拠点や幹線道路沿道に多様な都市機能を集積し、日常生活を支える商業・サービス、福祉などの機能を備えた生活圏の維持・構築を図ります。

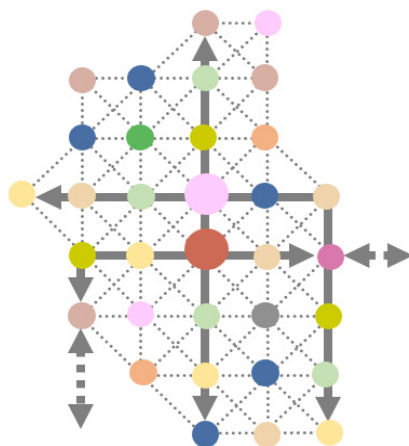
イ 東西・南北の都市軸、地域間や周辺とのネットワーク形成

本市は約 5,000 の町で市街地が形成され、個性的な地域がネットワークする都市です。多様な都市機能が集積した市内各地の地域拠点と、それらを結ぶ鉄道等の公共交通をはじめとした都市軸を活用し、地域間のつながりを強化します。また、近隣都市との一体性や相互に与え合う影響を視野に入れつつ、京都都市圏の中核としての魅力と活力の維持・向上を図るとともに、けいはんな学研都市（関西文化学術研究都市）や大阪都市圏も視野に京都独自の求心力を発揮し、京都ならではの魅力の発信を図ります。

加えて、既存のインフラを活用・駆使すること等により、市外からの通勤・通学者や観光客など、市民のみならず本市と様々な関わりを持っている人々にとっても安心感と愛着を抱ける心地よいまちを目指します。

ウ 災害リスクや持続可能性を踏まえた都市づくり

自然災害が頻発・激甚化している昨今、そのリスクに備えた災害に強いまちづくりを行ううえで、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の実現を図ることの重要性はますます大きくなっています。都市機能の適切な配置や道路網の形成などを通じて、持続可能性とレジリエンス（回復力）のある都市構造を目指します。



コンパクト×ネットワークのイメージ

3 目標とする都市の将来像

農林業や伝統産業から先端技術産業に至るまで、幅広い分野の産業が展開する「ものづくり都市」。歴史・文化資源を豊富に有し、国内外から多くの人々が訪れる「国際文化観光都市」。多種多様な人材が集う「大学のまち・学生のまち」。京都議定書誕生の地であり、しまつの心が息づく「環境先進都市」。様々な商業機能・業務機能が集積する「京都都市圏の中核都市」。これらをはじめ本市には実に多彩な「顔」、すなわち「強み」があります。そうした「強み」をいかしながら、次の4つのテーマごとに、目標とする都市の将来像の実現を目指していきます。

(1) 活力・賑わい

産業・商業・業務・学術等様々な機能や資源の集積をいかし、長期的な視点を持って、市外の方々と協力し合い、最新技術を取り入れることで、世界に類を見ない価値を新たに創造し続け、経済の足腰を更に鍛え、まち全体の活力を生み出します。

また、市民生活との調和・両立を図りながら、持続可能な観光・MICEを推進します。

加えて、各分野で多彩な才能を持つ人々を世界中から呼び込むことで、共創を通じた新たな文化や産業が生まれ出される「クリエイティブな都市」を目指します。



(2) 暮らし

人が、まちの活力の基盤となります。市内で育った方はもちろん、進学等を機に市内へ転入してきた方、その後子育てを始めた方など、どのようなライフステージにあっても、暮らし続けることができ、移住先として選ばれるまちを目指します。

また、京都ならではの地域コミュニティが受け継がれる身近な生活圏で「職住」のみならず多様な機能が融合した、暮らしや子育てなど日常を送ってみたいくなる生活空間の形成を図ります。そうした取組を通して、誰もが住みたい場所に住み、自由に移動でき、居住者だけでなく京都のまちと様々な関わり方をしている全ての人々が多種多様な形でつながり合い、それぞれの望む生き方や暮らし方を実現できるウェルビーイングなまちを目指します。



（3）文化・景観

長年継承されてきた建物や庭園、祭りなどの伝統行事、伝統芸能、慣習など人々の日々の営みと不可分である歴史や文化、暮らしの土台となっている豊かな自然や景観を、今後も大切に未来へ引き継いでいきます。

また、各地に所在するそうした文化的・景観的資源等をうまくリンクさせて、市民はもとより京都を愛してくださる多くの人々がそれらの魅力に身近に触れ、京都だからこそ得られる学びや気づき、感動に出会えるまちを目指します。



（4）安心・安全

ハード・ソフト両方の視点から、歴史都市としての特性を踏まえつつ、様々な立場の人々が連携・協力しながら災害への備えを進め、自助・共助・公助それぞれが十分に機能する災害に強い防災・減災が図られるまちを目指します。

また、ユニバーサルデザインの理念に基づき、出自や生い立ち、年齢、性別、国籍、性自認や性的志向、宗教や信条、身体的・精神的特徴に関わらず、誰もが暮らしやすい、安心で安全な都市を目指します。



第 2 章

テーマ別方針

- 
- 1 活力・賑わい
 - 2 暮らし
 - 3 文化・景観
 - 4 安心・安全

1 活力・賑わい

ア 究める 世界に類を見ない価値を創造するまち

① オフィス・ラボの集積、研究開発、共創の場づくり

都心部においては、京都ならではの歴史的な町並みや多様な商業機能といった魅力をいかしながら、企業の本社やオフィス・ラボ等の集積を進めることで、そこで働く多彩な人々の交流を促し、新たな産業の創出を図ります。

また、ものづくり産業の集積地や研究開発拠点等においては、大学、世界的企業、中小・スタートアップ・ベンチャー企業によるオープンイノベーションや産学公連携を促すことなどにより、国際競争力を高める環境整備を進めます。

■桂イノベーションパーク地区



■京都リサーチパーク地区



具体的な方針

- 広域拠点エリア
京都の都市活力をけん引し、京都の商業・業務の中心としてより一層、都市活力を高め、広域のニーズに対応し、京都の都市格の向上と地域経済の活性化を図るため、オフィスをはじめとする商業・業務機能の立地の誘導と、多様な都市機能の集積
- 歴史的都心地区周辺
伝統と最先端技術の融合や京町家をはじめとした歴史的なストックのオフィス活用など、クリエイティブ産業を支える拠点の創出
- 京都駅周辺
都市活力をけん引するオフィス・ラボや商業施設などの都市機能の高度集積を進めるとともに、ウォークアブルな賑わいが多様な交流をうむ駅前空間を創出。また、らくなん進都までの幹線沿道においても、新たなオフィス・ラボ集積地の形成を図る
- らくなん進都
南部創造のまちづくりの先導地区として、安全・快適で魅力的な都市環境の創出や利便性の高い公共交通体系の整備、脱炭素型のまちづくりと、国内外の最先端のものづくり企業をはじめとする企業の本社オフィスや生産・研究開発・流通機能の集積。特に、鴨川以北地区においては、ゆとりある本社オフィスや生産、研究開発機能などの集積を図る
- 京都リサーチパーク地区周辺
リサーチパーク地区において、新産業の創出拠点として、研究開発、育成機能の集積を促進するほか、五条通沿道においては緑地などの人が交流できる空間やコワーキングスペースなどを備えた質の高いオフィスの誘導を図る

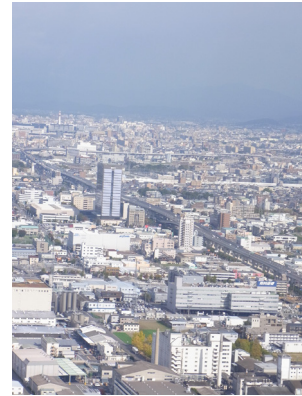
- 梅小路京都西駅周辺など
クリエイティブなまちづくりの取組と連携したスタートアップのオフィスやラボの集積
- 桂イノベーションパーク地区周辺
大学や産業支援機関などとの連携の下、民間企業などから研究開発施設などの進出を促し、産学公連携による産業振興（研究開発）拠点として形成・充実
- 出町柳駅周辺
地の利をいかして大学と緊密に連携するスタートアップ・ベンチャー企業の立地を進める

② ものづくり産業などの集積、伝統産業等の振興

■らくなん進都（南側から望む）

工業地域、工業専用地域をはじめ、ものづくり産業の集積地においては、操業環境の保全・向上や生産機能の高度化への対応、都市活動を支える幹線道路網の強化、高速道路との優れたアクセス性をいかした産業用地の創出など、事業環境の整備を図ります。

また、伝統産業と最先端技術の融合など、地域で受け継がれてきた歴史・文化、匠の知恵や技をいかしつつ、クリエイティブ産業を支えるまちづくりを進めます。



具体的な方針

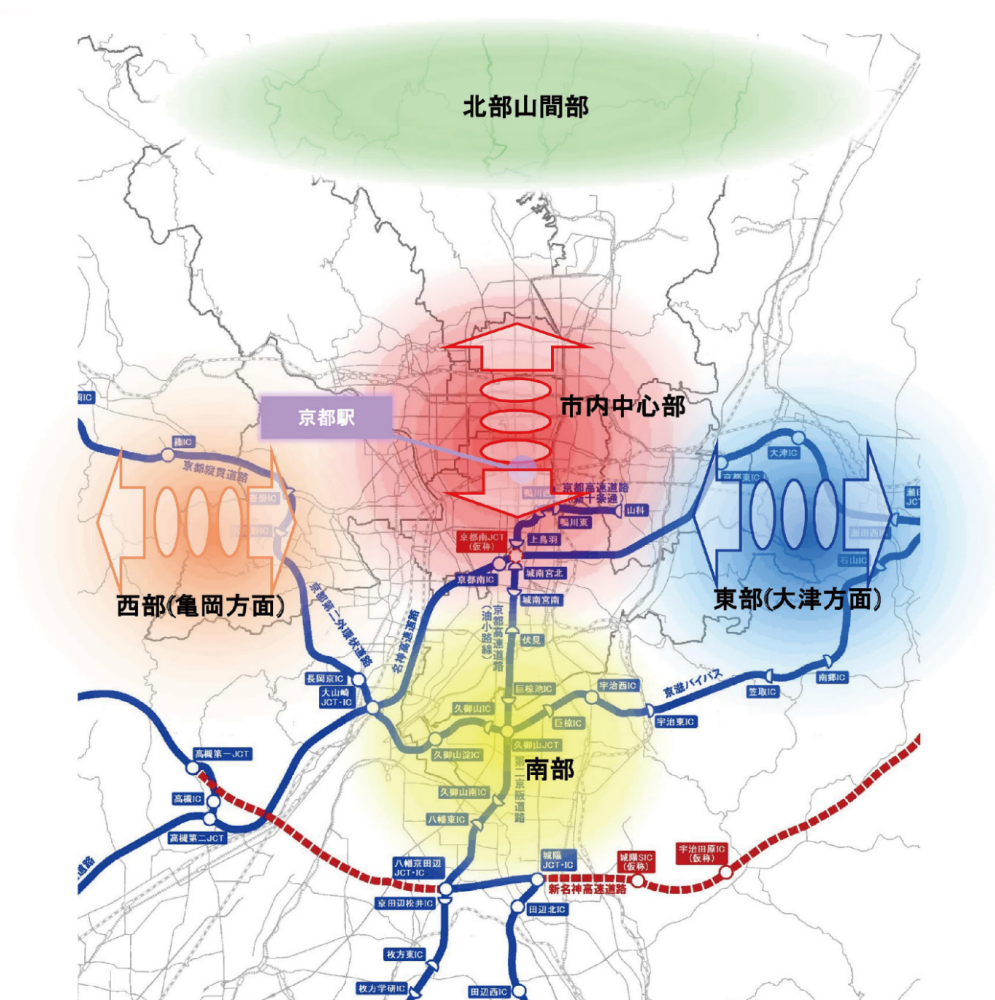
- らくなん進都
南部創造のまちづくりの先導地区として、安全・快適で魅力的な都市環境の創出や利便性の高い公共交通体系の整備、脱炭素型のまちづくりと、国内外の最先端のものづくり企業をはじめとする企業の本社オフィスや生産・研究開発・流通機能の集積。
あわせて地区のシンボル軸となる油小路通沿道のパルスプラザ周辺や主要交差点附近においては、本社・研究開発機能などの魅力向上に資する商業・文化機能などの多様な都市機能の誘導も図る【一部再掲】
- 鉄道駅に近接しているアクセス性の高い工業地域
工場の操業環境を維持しつつ、生活利便が整った居住環境の創出
- 市境の地域
隣接市町の都市計画との一体性の向上や、相互の効果を発揮する機能の充実
- 西ノ京や西京極、西九条、壬生、山ノ内、西院、山科区の南西部などの地域
ものづくり産業が集積するとともに都市居住が共存するエリアであり、工場などの生産機能の充実や居住環境と調和した新たな産業展開など、住と工が共存できる環境の維持・充実
- 西陣織や京焼・清水焼などの京都を代表する伝統産業を中心とする地域
ものづくり産業の操業環境と居住環境双方の維持・向上を図ることで、住と工が共存できる環境の維持を図るとともに、伝統産業と最先端技術の融合を図るなど、地域で受け継がれてきた歴史・文化、匠の知恵や技をいかしつつ、クリエイティブ産業を支える拠点として、暮らしと調和した働く場を創出
- 五条坂～東福寺駅エリア
交通利便性の高さや近隣の文化芸術に関する取組、この地に受け継がれる伝統産業等をいかし、新たなチャレンジを志す人を後押しするなど、新たな魅力の創出

- 吉祥院、横大路（概ね府道京都守口線の東側）、上鳥羽、久我・久我の杜・羽束師などの地域
住・農・工の土地利用が混在する地域であり、それらが適切に共存する環境の維持を図る
- 緑豊かなエリア
農林業や観光等の産業の振興等により、地域の生活・文化等を維持・継承
- 高速道路のインターチェンジや幹線道路に近接するなどアクセス性が優れるエリア
土地区画整理事業による基盤整備や、市街化調整区域においては地区計画等の活用などにより、周辺環境とも調和する産業用地の創出を図り、活力あるまちづくりを展開

③ 「ものづくり都市・京都」を支える道路ネットワークの充実

道路ネットワークは「ものづくり都市・京都」を支える都市の骨格であり、物流や通勤、通学での利用にとどまらず、沿道に商業機能などが集積することで地域の賑わいにもつながる、大変重要なものです。そのため、渋滞の緩和や交通の安心・安全だけでなく、まちの賑わい・活力にもつながる沿道利用の促進も図るべく、持続可能なまちづくりに不可欠な効率的で効果的な道路ネットワーク形成を進めます。

■鴨川東岸線（第二工区）



資料：京都市の将来を見据えた道路ネットワークの在り方（とりまとめ）

具体的な方針

<道路整備等>

- 土地利用の高度化、都市の骨格形成や都市構造上のボトルネックの解消といった視点による、都市計画道路ネットワークを形成
- 「安全・安心」「防災・減災」「周辺都市との連携・交通の円滑化」「沿道利用の促進・集落の活性化」といった視点を踏まえた道路整備や市域をまたぐ広域道路ネットワークの構築
- 機能的な道路ネットワークをいかし、都市活動と市民生活の利便性を高め、徒歩と公共交通優先の安心・安全で賑わいがあり、ゆとりのある魅力的な歩行空間の更なる創出に向け、道路空間の再配分や交通安全対策、バリアフリー化などを推進

<維持管理等>

- 緊急輸送道路などにおいて、橋りょう、沿道建築物の耐震化や道路斜面の落石・崩壊対策、道路拡幅、無電柱化などを推進
- 予防保全型の維持管理へ転換することで、コスト縮減や更新時期の平準化を図るほか、維持管理における市民協働を推進

関連計画

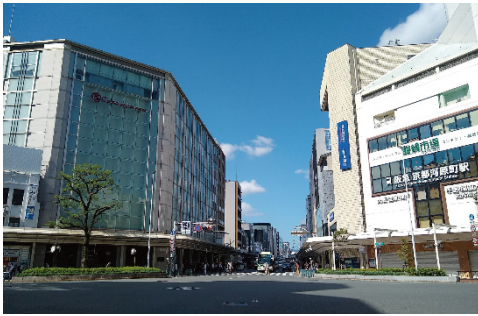
- ・ みんなのみちづくり計画
- ・ いのちを守る 橋りょう健全化プログラム
- ・ 道路のり面維持保全計画
- ・ 今後の無電柱化の進め方
- ・ 京都市の将来を見据えた道路ネットワークの在り方（とりまとめ）

イ 魅せる 夢中と感動に溢れた人生とまち

①商業機能や文化施設など多様な機能の集積

都心部においては、京都のまちなかにふさわしい魅力的な都市空間を創出し、快適に回遊できる歩いて楽しいまちの実現を図るとともに、商業機能だけではなく、美術館や劇場といった文化施設など、多様な機能を集積させます。これらにより、暮らす人、働く人、観光や買物に訪れた人など、世界中の様々な人々が、出会い、交流し、共創するまちを目指します。

■四条通沿道の町並み



■祇園町南側地区の町並み



具体的な方針

- 広域拠点エリア
京都の都市活力をけん引し、京都の商業・業務の中心としてより一層、都市活力を高め、広域のニーズに対応し、京都の都市格の向上と地域経済の活性化を図るため、オフィスをはじめとする商業・業務機能の立地の誘導と、多様な都市機能の集積【再掲】
- 京都駅周辺
都市活力をけん引するオフィスビルや商業施設などの都市機能の高度集積を進めるとともに、ウォーカブルな賑わいが多様な交流をうむ駅前空間を創出【再掲】
- 職住共存地区
歩いて楽しいまちづくりの先導的な地区として自動車交通の抑制等による歩行環境の向上と歩行者空間の拡充・魅力を向上するとともに、魅力的な都市空間の形成に向け、既存の町並みや住環境、防災性能の向上に配慮しつつ、京町家をはじめとする既存ストックの活用などによる、京都ならではの歴史的な市街地の魅力を高める機能の充実と都心居住の促進
- 都心部の各通りの沿道
特性に応じた賑わいの創出を図るとともに、賑わいと交流を生み出す回遊性の高いウォーカブルなまちづくりを推進
- 祇園町南側周辺や新橋周辺、先斗町周辺等
京都らしい風情があり、京町家など伝統的な建築物が多く残る場所として、防災性能の向上を図りつつ、建築物や町並みとの調和に配慮した商業機能の充実
- 木屋町通周辺や祇園町北側周辺などの繁華街
周辺と調和した商業機能の誘導

関連計画

- ・京都市商業集積ガイドプラン

②多彩な共創で未来を切り拓く国際文化観光都市

市民生活との調和・両立の下、京都観光に関わる全ての人々にとって質・満足度が高く、心や人生を豊かにするといった「観光の本質」を皆が享受できる、そして市民生活の豊かさの向上につながる持続可能な観光・MICEを目指します。

また、多様で奥深い京都の魅力をいかして多彩な人々を呼び込むことで、新たな文化や産業の創出、京都の魅力・活力の向上を目指します。

具体的な方針

- 歴史的な町並みや美しい景観の維持・継承
- 市民生活との調和や地域の活性化などにつながる宿泊施設全体の質の向上
- 混雑対策や観光マナーなど、観光課題対策の強化
- 公共交通機関の利便性向上や、自転車の利用環境の充実等による受入環境の整備
- 平常時における市民・観光客双方の安心・安全の確保や、災害発生時の危機対応力の向上
- 京都の強みをいかした MICE 誘致強化
- 国際都市としての京都の魅力を一層高め、都市格の向上に寄与するインターナショナルスクールの開設等の支援など受入環境の整備

関連計画

- ・ 京都観光・MICE 振興計画

2暮らし

ア 住まう それぞれの望む暮らし方を実現できるまち

① ニーズや地域の特性に応じた住宅供給や住環境の確保

就職、結婚、子育てなどライフステージに応じた住まいを選択できるよう、交通利便性や自然環境、地域コミュニティとのつながりといった地域特性を踏まえた居住環境の創出を進めるとともに、既存住宅の適切な更新やリノベーションによる住宅供給を図ります。

また、住環境に配慮しながら、多彩な用途が適度に混在し必要な機能が身近にある、誰もが心地よく豊かに暮らし、過ごすことができるまちづくりを進めます。

具体的な方針

- 日常生活エリア
多彩な用途が混在する京都ならではの土地利用を反映しながら、多くの人々の生活の場として地域のニーズに応じた商業施設や病院、保育施設、ワークスペースなどの身近な生活圏で暮らしを支える施設や、地域コミュニティの形成に必要な多様な機能が充実した居住環境を形成
- 鉄道駅の周辺や幹線道路沿道
各地域の特性を踏まえながら、若年・子育て世帯から高齢者まで多様な世代のライフステージに合った居住環境の充実
- 歴史的都心地区周辺
多様な都市機能が集積する機能的な都市環境と、職と住が共存する町並みが調和した快適で賑わいのある都心居住の魅力の維持・向上
- ものづくり産業と居住が混在する地域
ものづくりと調和し生活利便が整った居住環境の創出
- 洛西ニュータウンや向島ニュータウンなど
計画的に配置されたゆとりある住宅地として良好な居住環境の維持・再生
- 大規模団地やその周辺に形成された住宅地など
地域の特性に応じたゆとりと潤いのある居住環境の維持・向上・再生
- 高度経済成長期以降にスプロール的に開発された高密な住宅地が多い地域
高密で狭小地が多いといった地域の特性に配慮しながら、多様なニーズに対応した住宅の供給や更新が適切に行われる環境整備を進めることで安心・安全で快適な居住環境の形成
- 市街化が見込まれる中・大規模農地が残る地域
スプロールの防止と計画的な市街地整備を誘導
- 市街化調整区域や山間地域などの農林業が中心の地域
市街化の拡大抑制と同時にみどり豊かな自然環境の育成・保全を前提に、森林や農地の維持管理において重要な役割を果たしている地域住民の暮らしを支えるため、既存集落の住環境・生活環境の充実、農林業及び地域資源をいかした観光や森林サービス業などの産業の振興による、地域の生活・文化、コミュニティの維持・継承

- 土地区画整理事業

交通の円滑化や居住環境の向上を図るため、土地区画整理事業により、道路や公園などの公共施設を一体的に整備

- 既存住宅

既存住宅の利活用・流通促進により、若年・子育て世帯が経済的にも手が届く住宅の供給を図る

関連計画

・京都市住宅マスタープラン

② 日常生活を支える都市機能の適切な配置

鉄道駅周辺などの地域の核となるエリアでは、一定規模の商業施設や総合病院、各種サービス施設や居住地に近い働く場の充実など、地域特性に応じた都市機能の維持・誘導を図ります。

また、日常生活エリアでは、日々の暮らしに欠かせないスーパーや診療所、高齢者福祉施設、保育所といった毎日の暮らしを支える都市機能の充実と適切な配置を進め、生活利便施設が充足し、多世代が安心・快適に居住できる生活圏の形成を図ります。

具体的な方針

- 地域中核拠点エリア

定住人口の求心力となる若年・子育て世帯のニーズに合った居住環境の充実に向け、一定規模の商業施設や総合病院、各種サービス施設の誘導や、居住地から近くアクセス性の高いシェアオフィスやコワーキングスペースを備えた新しい形のオフィスを誘導するなどして、働く場の充実

- 日常生活エリア

多くの人々の生活の場として地域のニーズに応じた商業施設や病院、保育施設、ワークスペースなどの身近な生活圏で暮らしを支える多様な機能が充実した居住環境を形成。また、日常生活エリア内の地域中核拠点エリア以外の鉄道駅の周辺や商店街などでは、地域での暮らしを支える機能の更なる充実【一部再掲】

- 市内各地の魅力ある幹線道路沿道

それぞれの地域の特性に応じた、周辺エリアの魅力を高める機能の集積や立地誘導、維持・充実

- 市境における公共交通の拠点周辺

隣接市町の都市計画との一体性の向上や、相互の効果を発揮する機能の充実

- 向日市との市境地域

将来的な都市計画道路の整備や向日市域での都市開発を見据え、多様な都市機能の適切な配置・誘導

- 伏見旧市街地

いくつもの商店街などが持つ独自の賑わいや、多くの歴史・文化資源などをいかし、商業・業務機能の維持・充実

関連計画

・京都市商業集積ガイドプラン

イ 繋ぐ・動く 健康で文化的な生活を営み続けられるまち

① 暮らしを支える公共交通の利便性向上・交通マネジメント

市内の暮らしに不可欠な生活交通の維持・確保に加え、京都駅や観光地の周辺における混雑対策をより一層進めることで、全ての人が快適・便利に利用できる公共交通の維持・向上を図ります。

公共交通の担い手不足の課題に対しては、自動運転や MaaS（Mobility as a Service）等の最先端技術を取り入れ、持続可能な都市を支える公共交通ネットワークづくりを進めます。

■地下鉄



■バス



具体的な方針

<地域特性に応じた持続可能なまちづくりを実現する公共交通ネットワークの形成>

- 交通事業者や行政の連携による、快適、便利に利用できる公共交通の利便性向上策等を推進し、市民の暮らしを支える公共交通を維持することに加え、既存公共交通の維持が困難となったエリアについても、地域の実情とニーズに応じた移動手段の維持・確保に努める
- IoT や AI、自動運転などの新技術、MaaS 等の推進により、スムーズで、分かりやすく、より便利に移動できる環境や、公共交通の安心・安全の一層の向上を図る
- 市民と観光客との移動の錯綜を解消し、混雑対策をより一層進めることで、移動が円滑に、そして安心できるような環境になるよう取組を進める
- LRT、BRT や自動運転技術を活用した新たな公共交通システムに関する幅広い検討を進め、持続可能な都市社会を実現するために、公共交通ネットワークをより一層充実させることを目指す

関連計画

- ・「歩くまち・京都」総合交通戦略
- ・京都市地域公共交通計画

② ウォーカブルなまちづくり

人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を推進し、「歩行者」を最優先とするウォーカブルな都市空間を確保することで、誰もが「出かけたくなる」魅力と活力あふれるまちの実現を目指します。

あわせて、地域特性に応じた道路の使い方を考慮のうえ、公共交通と徒歩や自転車、新たなパーソナルモビリティなど多様な移動手段をかしこく組み合わせた、快適に出かけるスマートなライフスタイルの定着など、安心・安全な移動をするための取組を進めます。

■四条通



■自転車走行環境の整備



具体的な方針

<誰もが「出かけたくなる」歩行空間の創出をはじめとする魅力的なまちづくり>

- 都心部幹線道路や観光地周辺道路などにおける安心・安全で魅力的な歩行空間の創出を進め、回遊性が高く、歩いて楽しめる賑わい空間づくりを進める
- 地域の特性に応じた道路の使い方を検討するとともに、自動車利用の適正化・効率化を推進し、単に自動車交通を抑制するのではなく、駐車場の利活用、安心・安全で都市活力にもつながる道路ネットワークの整備を進め、市民の生活と経済活動を支える円滑な物流などに配慮しつつ、道路機能分担を踏まえ、自動車交通の効率化と適正化を目指す
- 自動車に過度に頼らず徒歩や公共交通等による移動へと、市民のライフスタイルの自発的な転換を促すため、モビリティ・マネジメントを実施し、健康で、人と環境にやさしい歩いて楽しい暮らしとなるよう公共交通を自らが選択するスマートなライフスタイルの定着を進める

<安心・安全・快適な自転車利用環境の充実や自転車交通の役割拡大>

- ライフステージに応じたより効果的な自転車安全教育の充実を図る
- あらゆる機会を通じて、様々な主体と連携・協働し、自転車利用のルール・マナーの周知、啓発を進める
- ネットワーク整備を更に推進するとともに、道路状況に応じて自転車専用通行帯等での整備を推進する
- 学校周辺や自転車事故が多いエリアにおいて、面的な走行環境整備を行う
- 既存駐輪場の機能向上や情報発信を強化し、駐輪環境の充実を図る
- 駐輪ルールを含む自転車ルールの周知・啓発に取り組むとともに、効率的な放置自転車撤去を継続する
- 徒歩や公共交通等とかしこく組み合わせた自転車の利活用や多様な場面での自転車の活用を促進する

関連計画

- ・「歩くまち・京都」総合交通戦略
- ・京都市自転車総合計画
- ・みんなのまちづくり計画

③ 地球環境と共生する都市

環境にやさしい新たな公共交通システムの検討をはじめとする公共交通網の充実と「クルマ中心」から「徒歩・公共交通中心」への転換を図ることや、リサイクルの徹底、都市の木質化やグリーンインフラの整備などにも取り組むことで脱炭素化を進め、自然と共生する文化や市域の大部分が山林である京都ならではの知恵や哲学を礎とする地球環境と共生する都市を目指します。

■木質化した建物の事例



具体的な方針

<モビリティの転換等による脱炭素型の都市>

- 交通事業者や行政の連携による、快適、便利に利用できる公共交通の利便性向上策等を推進し、市民の暮らしを支える公共交通を維持することに加え、既存公共交通の維持が困難となったエリアについても、地域の実情とニーズに応じた移動手段の維持・確保に努める【再掲】
- IoT や AI、自動運転などの新技術、MaaS 等の推進により、スムーズで、分かりやすく、より便利に移動できる環境や、公共交通の安心・安全の一層の向上を図る【再掲】
- LRT、BRT や自動運転技術を活用した新たな公共交通システムに関する幅広い検討を進め、持続可能な都市社会を実現するために、公共交通ネットワークをより一層充実させることを目指す【再掲】
- 都心部幹線道路や観光地周辺道路などにおける安心・安全で魅力的な歩行空間の創出を進め、回遊性が高く、歩いて楽しめる賑わい空間づくりを進める【再掲】
- 環境への負荷が少ない次世代自動車の普及

<エネルギーの転換による脱炭素型の都市>

- 都市施設整備におけるリサイクルの徹底や再生材の活用、再生可能エネルギーの利用等、自然の循環に負荷を与えない都市づくり
- 大規模な土地利用転換等を契機とした自立分散型のエネルギーシステムやエネルギーマネジメントシステムの導入検討
- CASBEE 京都の活用や長期優良住宅等の普及
- 「京都らしい省エネ住宅」の普及

<自然と共生した脱炭素型の都市>

- 市域の大部分を占める森林について、生物多様性にも配慮しながら、維持保全と地域活性化に向けた積極的な活用を推進
- 幹線道路における街路樹の充実や、市街地内のまとまりあるみどりの維持保全
- 市内産木材「みやこ杉木（北山丸太を含む）」の利用促進
- グリーンインフラをいかしたオープンスペースの充実、市街地のみどりや河川の水辺の保全

関連計画

- ・「歩くまち・京都」総合交通戦略
- ・京都市地域公共交通計画
- ・京都市地球温暖化対策計画
- ・京都市生物多様性プラン
- ・京都市住宅マスタープラン
- ・京都市みどりの基本計画
- ・京都市水共生プラン

3 文化・景観

ア 守る 自然との不可分性・一体性を体感・体得できるまち

① 良好な景観の形成・創造

優れた景観の魅力を更に高めていくため、京町家や神社仏閣など風情ある建造物が織りなす歴史的な町並み景観の保全に加えて、お互いの顔が見えるスケール感の中に京都らしい情緒を色濃く残す路地空間の保全・再生、人々の生活や生業から醸し出される文化的景観の保全・形成、地域の活力や魅力を向上させる景観づくりを進めます。

■京町家



具体的な方針

<歴史的な町並み景観を守り、育む都市>

- 山々の眺望などに配慮した景観形成
- 歴史的町並みの保全
- 道路の無電柱化による景観形成
- 歴史的景観を保全・継承する京の道づくり

<京町家や庭園等の歴史・文化資源を活用する都市>

- 京町家等の既存建築物の有効活用
- 文化財や京町家等の歴史・文化資源の安全性の確保
- 京都文化遺産を活用した取組
- 歴史的景観を形成する建築物や庭園等の保全・継承・活用
- 「新町家」の普及及び伝統的構法や伝統技術の継承と発展に向けた取組

<“盆地景”を基本に自然と共生する景観形成>

- 市街地の背景として眺望されるみどり豊かな山並みは、長い歴史を通じて我が国の文化を育んできた京都のまち及び鴨川をはじめとした河川と一体となって山紫水明と形容される特有の優れた都市風景を形成しており、将来の世代に継承できるように、山並みの風景の保全・再生を図る
- 市内のみどり豊かな山々と歴史的資産が集積する優れた自然景観や山すそに広がるみどり豊かな住宅地などでは、都市の風致の保全を図る
- 建築物の高さは、都市全体の景観形成に大きな影響を及ぼすことから、三方をなだらかな山々で囲まれた京都の盆地の風土やこれらの山並みとの調和に配慮し、都心部から三山の山すそに行くにしたがって次第に建築物の高さが低くなるような構成を基本としつつ、隣接する市街地間の高さの格差の抑制や土地利用にも配慮した高さ規制とする

<伝統文化の継承と新たな創造との調和を基調とする景観形成>

- 数多くの歴史・文化資源が集中し、東山、北山、西山などを背景にして恵まれた自然環境と一体をなす山麓部の特色ある歴史的風土の保存を図る
- 歴史都市・京都を構成する世界文化遺産をはじめ、様々な歴史的建造物や史跡名勝、さらには、群をなす優れた伝統的建造物など市内に点在する歴史遺産を積極的に保存
- 歴史遺産の周辺などには、京町家をはじめとする歴史的建造物や庭園が点在し、風情ある町並み景観を形成するとともに、伝統文化や伝統技術を継承するうえにおいても重要な役割を果たしており、積極的にこれらの建造物の保全・再生・活用を図る
- 京町家や近代洋風建築が残り歴史的風情をたたえる良好な景観の保全・再生を重点的に推進
- 歴史的な景観や地域の特性と調和しつつ、デザインの創造性を発揮した建築物などを積極的に誘導

<“京都らしさ”をいかした個性ある多様な空間から構成される景観形成>

- 歴史的景観を形成している建造物群が存する地域やまとまりのある景観の特性を示している市街地の地域では、その良好な景観の保全及び修景を図る
- 概ね昭和初期に市街地が形成されていた北大路通、東大路通、九条通、西大路通に囲まれた地域及び伏見の旧市街地を景観形成の重点地域として、市街地景観の整備を図る
- 視界に入る全ての景観が重なり合って織り成す「景色」「風景」は、長い歴史の中で京都の人々の共通の楽しみとして生活・文化に根付いてきたものであり、京都を訪れる大きな魅力の一つとなっており、このかけがえのない眺望景観の保全・創出を図る
- 住宅や店舗が連なる路地やこみちについては、安全を確保しながら、そこでの暮らしや生業とともに、京都らしい空間を維持できるよう努める

<都市の魅力・活力を生み出す景観形成>

- 固有の歴史や文化などを背景とした特色ある景観まちづくりが進められている様々な地域において、これまでの積み重ねを継承しながら、多様な主体の参画による対話と協働を推進するとともに、景観まちづくりの新たな担い手育成に努める
- 歴史的な景観や地域の特性と調和しつつも、時代を象徴する現代的な優れたデザインの建築物などを積極的に誘導
- 地域ごとにビジョンを創り、実現していくまちづくりのプロセスを支援するとともに、「京都の景観の守るべき骨格」を堅持しながら、地域ごとのビジョンを実現する優れた計画を誘導
- 地域の特性に応じた魅力ある夜間景観づくりに向けて取組を進める

<重要文化的景観の保全>

- まちなかや山間部など、日常生活や生業を通じて創り出され、長い年月の積み重ねを経て現在まで継承されてきた京都の文化的景観が、国が選定する重要文化的景観となるよう、地域が育ててきた景観を守っていこうとする人々などと連携しながら取組を進める

関連計画

- ・ 京都市景観計画
- ・ 京都市歴史的風致維持向上計画
- ・ 京都市生物多様性プラン
- ・ 京町家保全・継承推進計画
- ・ 今後の無電柱化の進め方

② 自然の保全・活用

山々や河川をはじめとする自然景観を今後も維持保全しながら、自然と調和したゆとりと潤いのある市街地の形成を図ります。また、山間部においては、無秩序な開発の防止を前提に、農林業や各地の資源をいかした地域づくりを進めます。

■鞍馬地区（自然風景保全地区）



■小塩山（近郊緑地特別保全地区）



■山間部の集落



■四条堀川交差点・雨庭



具体的な方針

<自然景観の保全再生>

- 市街地景観の背景となるみどり豊かな山々の自然景観や歴史的遺産と結びついた風致を維持・保全し、都市全体の美しさや市民の生活環境の保持を図る
- 山すそなどにおいては、貴重な歴史資源と自然環境が一体となった歴史的風土の維持・保全を図る
- みどり豊かな山並みに代表される自然風景を保全・再生し、みどりを守り育てる
- 山々とつながりの深い河川空間の景観保全を図る

<市街地内やその近辺におけるみどりの保全>

- 嵐山、松尾、大原野、醍醐などの市街地の近辺
相当規模の広さを有する樹林地を無秩序な開発から保全し、小塩山や善峰寺周辺などの特に重要な緑地資源についても、保全を図る
- 市街地内におけるまとまった緑地（洛西中央緑地や吉田山など）
保全活用を行う
- 市街地内やその近辺の優良農地
新鮮な農産物を供給する役割とともに、みどりのオープンスペース、避難のための空間、雨水の貯留や都市の水循環機能といった多様な機能を有する都市に必要なものとして、維持・活用方策を検討

<豊かな自然との共生>

- 大原や^{とういん}岩陰などの農山村集落
京都市に残された貴重な資源としての森林、農地の保全を図りつつ、農林業や地域資源をいかした地域づくりの核となる機能の充実を図る
- 大枝や大原野などの市街化区域周辺に位置する既存集落
都市近郊農業の振興と計画的な農地の保全を図りつつ、住環境や生活環境の充実と合わせて、文化的・地理的特性をいかした産業などの振興を図る
- 京北地域や花脊などの山間部
林業や農業などの地域資源を活用した交流拠点の充実や、受入環境の充実により、地域の魅力をいかしたグリーンツーリズムの推進を図る
- 大岩街道周辺地域
周辺の自然と調和した良好な環境を確保するとともに、同地域の特性を踏まえた土地利用を誘導
- 京都らしさを支える生物多様性の持続可能な利用や生息・生育地と種の多様性の保全・回復を図る

<街路樹・河川等の連続性のあるみどりの充実>

- 京都の庭園文化をいかした質の高いみどりの空間の整備などにより、街路樹をはじめとする市街地の緑化を進め、また、水辺空間のみどりを充実し、水とみどりのネットワークの形成を図る
- グリーンインフラの導入を進めることにより、安心安全な暮らしを支えるとともに、心地良い都市環境の実現を図る

<豊かな水環境・水文化の創出>

- 都市内の保水機能の確保や雨水循環の促進を図る
- 河川整備については、生物が住みやすい環境の保全や親水性の向上に配慮しながら、河川環境の向上やせせらぎの創出を行い、潤いある多自然川づくりを進める
- 市内河川と下流域の水環境を守るため、下水道施設の適切な運用・維持管理を行い、良好な水質の維持に努める
- 街路樹、農地、公園・緑地などの市街地内のみどりの保全・整備、水面の保全・創出、透水性舗装による雨水浸透などを促進するとともに、ヒートアイランド現象の緩和に努める
- 山紫水明に象徴される鴨川をはじめとした京都の美しい自然と景観を守り育てるため、良好な水辺環境と沿川景観の保全・創出に管理者とともに努める
- 市民と水との関わりを取り戻すために、身近なせせらぎの整備などにより、目に触れる水辺空間を創出するとともに、生物多様性に配慮した川づくりや、環境との調和に配慮した農業用水路・ため池の保全などに努め、水と共に生きるまちづくりを推進
- 伝統的な水文化の再生のために土木・文化遺産の保全・活用を図り、身近な水文化の創造のために、人と水が身近に接することができるような取組を推進

関連計画

- ・京都市生物多様性プラン
- ・京都市みどりの基本計画
- ・京都市水共生プラン
- ・京（みやこ）の水ビジョン

① 文化・学術のまち

歴史や文化、学問や産業など、京都独自の特性をいかし、文化芸術とまちづくりの連携を図るとともに、世界中から集まった多様な人々が出会い、集い、交流することで、新たな魅力や価値を創造し、新旧の魅力が融合する都市を目指します。

具体的な方針

- 多様な人々の出会いや集い、交流を通じて、地域に息づくまちの資源をいかした場が、地域のまちづくりと結びつく街区などを都市計画的に捉え、新たな魅力や価値の継承・創造を目指す
- 地域及び産業界との連携や文化の創造、また、国際都市としての京都の更なる発展など、都市格の向上に寄与する学術研究機能の誘致・維持のため、大学の施設整備時等の支援を実施
- 市民生活との調和や地域の活性化などにつながる宿泊施設全体の質の向上【再掲】
- 京都駅周辺
京都市立芸術大学の移転や中央卸売市場の再整備、梅小路京都西駅の開業を契機としたクリエイティブなまちづくりの機運を捉えて、アートやデザイン、ものづくり、伝統・先端産業などが融合した様々な取組・活動を支援し、地域全体の活性化を図る
- 岡崎エリア
本市における文化芸術の一大拠点として周辺の豊かなみどりや住環境に配慮しながら、エリアの魅力を更に磨き高め、その魅力を周辺へと波及させることで、本市全体に活力をもたらす文化芸術のまちとしての更なる進化を図る
- 北山通の沿道
植物園やコンサートホールなど地域資源が集積する北山文化・交流拠点地区におけるまちづくりとも連動しながら、魅力的な文化・商業機能の充実
- 京北地域や大原、鞍馬、花脊などをはじめとする観光資源の豊富な農山村集落
自然や歴史資源をいかした新たな魅力の創出に資する施設の充実を図る

② 交流するまち

日常に潤いをもたらし、健康や交流を育むなど、様々なニーズに対応する身近な公園や緑地、スポーツ・レクリエーションなどの施設の整備や多様な主体による柔軟な施設の運営を進めます。また、学校や図書館、区役所なども含めた公共空間について、広く地域に開くよう取り組むとともに、都市開発の機会を捉え魅力的な空間の創出を誘導し、市民や世界中から訪れる様々な人々が交流する賑わいあふれる拠点の充実を図ります。

■市役所前広場（芝生広場の実験）



■Park-UP 事業により整備した北鍵屋公園



具体的な方針

<魅力ある公共空間の創出>

- 公園や学校、ホール、市役所前広場をはじめとする公共施設はもちろん、民間施設についても新設や更新等の際に、市民、地域、NPO、企業、大学などの多様な主体が活用しやすい場ができるよう図ることなどにより、開かれたテラスのように気軽につどい・つながり・交ざり合い・学び合う魅力的な場や機会を創出
- 住居とも職場とも異なる、居心地のよい第三の居場所（サードプレイス）づくりに取り組むとともに、さらには、新たなつながりや活躍の機会を創出し、価値や気づきに出会える場所（フォースプレイス）に

<身近な公園・緑地の充実>

- 快適な都市環境の創出・向上、地域コミュニティの活性化、防災機能の充実など、多様なニーズに応える公共空間として、住民参加による公園づくりを推進
- 市民や来訪者がくつろぐことができる緑地帯や、京都の庭園文化をいかした質の高いみどりの空間づくりなどを推進
- 老朽化対策や長寿命化対策、バリアフリーやインクルーシブの考え方を含めた安全対策等、公園施設の安全を確保するとともに、地域と協力した管理運営や利活用を図る等、公園の質の充実を推進
- 神社仏閣などのみどりについては、歴史都市・京都の財産でもあることから、みどりのオープンスペースとして維持・保全を図る
- 市街地内のみどりを確保し、緑被率の維持・向上やみどりの多機能性を発揮させるため、建築敷地内におけるみどりのオープンスペースの確保、建物・敷地内緑地や緩衝緑地の確保など、多様な民有地緑化の促進を図る

<賑わい・交流を生み出す拠点等の充実>

- スポーツが持つ効果（健康増進、社会的なつながり、精神的な充足、教育的価値、地域や経済の活性化等）を誰もが享受できるまちを目指し、スポーツ施設や運動公園の機能充実や整備を図る
- 公園・緑地の整備・運営に当たっては、公民連携の取組を推進し、公園及び周辺地域の魅力や利便性の向上を図る
- 山々などにおいて、生物多様性の保全に資する適正管理を行うとともに、市民のレクリエーション空間としての活用を図る
- 多様な里山や既存の自然・歴史資源をいかし、山村交流を生み出すグリーンツーリズムの推進を図る
- 大規模な敷地等での開発事業等の機会をいかし、魅力的な都市空間の整備、都市機能の誘導を促進

関連計画

- ・京都市市民スポーツ振興計画
- ・京都市地球温暖化対策計画
- ・京都市生物多様性プラン
- ・京都市みどりの基本計画

4 安心・安全

ア 防ぐ・備える 危機に備え、対応し、立ち直ることができるまち

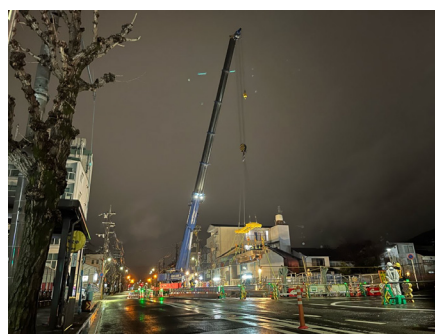
① 建築物・インフラの防災性能の向上

都心部の木造密集市街地や市内各地の細街路等、京都が持つ都市防災上の課題に対し、ライフライン・橋りょうなどの都市施設や建築物の耐震化、防火性能の向上、道路ネットワークの形成、治水対策等を推進するとともに、インフラの老朽化対策を着実に実施し、計画的で適切な維持、修繕を図ります。

■下水道管更生の施工状況



■橋桁の撤去・架設工事



具体的な方針

<災害に強い歴史都市>

- 市内の渋滞の緩和、災害時におけるリダンダンシーの確保、円滑な物流の確保及び周辺都市とのネットワーク強化などのため、幹線道路の整備を推進
- 都市基盤の多様な防災対策の検討（道路ネットワークの強化、避難地やオープンスペースの確保、避難路の整備、市街地整備、ライフラインの耐震化、自立分散型のエネルギーシステムの検討等）【一部再掲】
- 山間部における緊急輸送道路等の整備や土砂災害対策等による山間部の孤立化対策
- 文化財の防災対策
- 防災・減災に資するグリーンインフラの導入
- インフラ施設周辺等で倒木を未然に防止する取組の推進
- 効率的・効果的な社会資本の維持管理・長寿命化の推進

<ユニバーサルデザインの理念に基づいた都市>

- 安全性を確保した都市施設などの整備
- 不特定多数が利用する空間のバリアフリー化
- ハード・ソフト両面にわたる交通バリアフリーの推進

<地震に対する対策>

- 老朽化した水道管や下水道管の更新を推進するなど、ライフラインの耐震化
- 一部のライフラインが不通の場合にも他のルートで代替可能なネットワークの構築を図る

- 建築物全般の耐震化を促進するとともに、耐震化についての意識啓発及び情報発信を図る
- 既存建築物の長寿命化により健全なストックを形成し、また、既存建築物における事故の予防啓発により安全性の向上を図る
- 液状化対策の検討、大規模盛土造成地の把握に努めるなど、地盤の安全性確保を図る
- 緊急輸送道路などにおいて、橋りょう、沿道建築物の耐震化や道路斜面の落石・崩壊対策、道路拡幅、無電柱化などを推進【再掲】

<水災害等に対する対策>

- 浸水被害を軽減させるために、土地利用の規制・誘導のほか建築物の地下室や地下街の浸水防止対策を図るなど、関係者と連携した浸水対策を推進
- 浸水対策の必要な箇所では、雨水管などを整備し、雨水排水・貯留機能の向上を図るとともに、河川整備などと連携した治水対策を推進
- 地下水の^{かんよう}涵養により、平常時の河川流量の回復を目指し、上流域に広がる森林、市街地内の雑木林、社寺林、水田、畑など、水源涵養に効果が期待される緑地、農地の保全を図るとともに、市街地では雨水浸透施設の設置を推進
- 排水機場や河川管理施設の効果的・効率的な維持管理を推進するため、コスト縮減や更新時期などの平準化を図る
- 身近な水源である雨水について、公共公益施設、事業所のみならず、個人住宅などにおいても利用を推進

<火災に対する対策>

- 京都駅周辺や都心部の繁華街など不特定多数の人々が集まる市街地では、建築物の不燃化を促進
- 土地の高度利用を図るべき幹線道路沿道においても、避難機能や延焼防止機能の確保のため、建築物の不燃化など防火性能の向上を促進するとともに、街路整備を推進
- 既成市街地などで、木造建築物が密集している地域については、建築物の防火性能の向上を促進
- 既存建築物において防災性能を向上させることにより、火災の予防及び安全性の向上を図る
- 文化財や京町家などを安心・安全な建築物として継承し、防災性能の確保を図るため、市民の自主的な防災の取組との連携を図りつつ、京都市独自の防火性能を確保する取組を促進

<避難対策>

- 災害時における身近な防災活動拠点ともなる地域の集合場所においては、防災施設を備えた公園の整備を図る
- 地域の生活に密着した小・中学校などにおいては、災害時に必要な消火、生活用水などに活用できるよう、防災水利の防災機能強化を図る
- 細街路対策や密集市街地対策、スプロール市街地対策などにおいて、避難経路などの確保を図る

<細街路対策>

- 伝統的構法による京町家の増築や建替えを円滑に行うことができるよう、また、歴史的な細街路について、景観や防災の観点から各々の特性に応じた建築制限の付加及び緩和を可能とするような制度の整備に向けた取組を進める

- 防災上の課題を有する袋路などの細街路について、防災訓練や防災マップの作成など、地域コミュニティが主体となった取組や細街路の拡幅、沿道建築物の不燃化・耐震化、袋路の避難経路確保、オープンスペースの創出により、防災力の向上を図る
- 道路や公園など基盤整備が十分ではない既成市街地では、地域コミュニティの継承に配慮して建築物の更新を誘導するとともに、避難経路の確保や耐震改修などの促進を図る

<密集市街地対策>

- 密集市街地の実態を把握し、京都型の地域防災手法の確立など多角的な検討を行うとともに、低層高密の京都らしさを継承しつつ、老朽木造建築物の建替えや改修、狭小宅地の改善の促進、安全性の高い住宅の供給、住宅地における避難地や多方面への避難経路の確保、空き家対策、地域における防災まちづくり活動の支援などを行うことにより、安心・安全なまちづくりを総合的に推進
- 住工が共生している地域では、それぞれの密集市街地の実態や居住環境の課題を明らかにし、地域コミュニティによるまちづくりの取組を基礎としながら、状況に応じて小規模な面的整備やきめ細やかな修復型再生整備を検討し、良好な住環境と工場などが共生する地域の形成を図る

<空き家対策>

- 空き家の発生の予防、活用・流通の促進、適正な管理の指導など、総合的な空き家対策を図ることにより、防犯面だけでなく、町並みや地域コミュニティの維持の面でも地域の生活環境の保全を推進するとともに、防災面での安心・安全なまちづくりを推進
- 地域と連携した空き家対策の推進

関連計画

- ・京都市公共施設マネジメント基本計画
- ・京都市庁舎施設マネジメント計画
- ・京都市住宅マスタープラン
- ・京都市建築物耐震改修促進計画
- ・京都市の将来を見据えた道路ネットワークの在り方（とりまとめ）
- ・みんなのみちづくり計画
- ・いのちを守る 橋りょう健全化プログラム
- ・道路のり面維持保全計画
- ・今後の無電柱化の進め方
- ・京都市みどりの基本計画
- ・京（みやこ）の水ビジョン
- ・京都市「雨に強いまちづくり」推進方針
- ・京都市水共生プラン
- ・京都市細街路対策指針
- ・歴史都市京都における密集市街地対策等の取組方針
- ・京都市空き家等対策計画

② ソフト対策・被災後の復興

市街地に浸水想定区域が多く存在する土地利用状況とともに、頻発・激甚化する水害や土砂災害などに対応するため、日常的に防災を意識した「フェーズフリー」の観点も取り入れながら、自然災害に対する意識啓発や情報発信などに努めます。あわせて、浸水防止策の推進や土地利用の規制・誘導に向けた検討を行います。

■東日本大震災（平成 23 年）



■防災訓練の実施



具体的な方針

<災害に強い歴史都市>

- 文化財の防災対策【再掲】
- 被災後も見据えた歴史的市街地の防災対策の検討
- 地域コミュニティの取組をいかした防災対策の充実
- 土砂災害のリスク等を考慮した土地利用・建築規制

<ユニバーサルデザインの理念に基づいた都市>

- ハード・ソフト両面にわたる交通バリアフリーの推進【再掲】

<地震に対する対策>

- 建築物全般の耐震化を促進するとともに、耐震化についての意識啓発及び情報発信を図る【再掲】

<水災害等に対する対策>

- 浸水被害を軽減させるために、土地利用の規制・誘導のほか建築物の地下室や地下街の浸水防止対策を図るなど、関係者と連携した浸水対策を推進【再掲】
- 森林や農地の適正な管理・保全など、行政と市民が協力して流域からの雨水の流出の抑制を図る
- 鴨川、桂川、宇治川などの河川は、十分な流下能力の確保や適切な管理がされるよう管理者と情報共有するとともに、氾濫時における危険性の周知なども含めた治水対策を管理者とともに推進
- 流域の保水・遊水機能を保全するための土地利用の規制・誘導を図るとともに、市域の雨量、河川水位、気象情報などの情報の共有化や過去の水害時における危険性を周知し、適切な避難誘導や水防活動により浸水被害を最小限にとどめる

<火災に対する対策>

- 文化財や京町家などを安心・安全な建築物として継承し、防災性能の確保を図るため、市民の自主的な防災の取組との連携を図りつつ、京都市独自の防火性能を確保する取組を促進【再掲】
- 狭あいな道路にも進入可能な小型水槽車の運用など、木造建築物が密集している地域における消防活動体制を確保する
- 防火対策について日常から意識できるように啓発

<避難対策>

- 京都駅周辺など、人口・機能が集積するターミナルにおいては、周辺施設と一体となった帰宅困難者対策の検討など、避難者対策を推進
- 細街路対策や密集市街地対策、スプロール市街地対策などにおいて、避難経路などの確保を図る【再掲】

<細街路対策>

- 伝統的構法による京町家の増築や建替えを円滑に行うことができるよう、また、歴史的な細街路について、景観や防災の観点から各々の特性に応じた建築制限の付加及び緩和を可能とするような制度の整備に向けた取組を進める【再掲】
- 防災上の課題を有する袋路などの細街路について、防災訓練や防災マップの作成など、地域コミュニティが主体となった取組や細街路の拡幅、沿道建築物の不燃化・耐震化、袋路の避難経路確保、オープンスペースの創出により、防災力の向上を図る【再掲】
- 道路や公園など基盤整備が十分ではない既成市街地では、地域コミュニティの継承に配慮して建築物の更新を誘導するとともに、避難経路の確保や耐震改修などの促進を図る【再掲】

<密集市街地対策>

- 密集市街地の実態を把握し、京都型の地域防災手法の確立など多角的な検討を行うとともに、低層高密の京都らしさを継承しつつ、老朽木造建築物の建替えや改修、狭小宅地の改善の促進、安全性の高い住宅の供給、住宅地における避難地や多方面への避難経路の確保、空き家対策、地域における防災まちづくり活動の支援などを行うことにより、安心・安全なまちづくりを総合的に推進【再掲】
- 住工が共生している地域では、それぞれの密集市街地の実態や居住環境の課題を明らかにし、地域コミュニティによるまちづくりの取組を基礎としながら、状況に応じて小規模な面的整備やきめ細やかな修復型再生整備を検討し、良好な住環境と工場などが共生する地域の形成を図る【再掲】

<空き家対策>

- 空き家の発生の予防、活用・流通の促進、適正な管理の指導など、総合的な空き家対策を図ることにより、防犯面だけでなく、町並みや地域コミュニティの維持の面でも地域の生活環境の保全を推進するとともに、防災面での安心・安全なまちづくりを推進【再掲】
- 地域と連携した空き家対策の推進【再掲】

関連計画

- ・京都市住宅マスタープラン
- ・京都市建築物耐震改修促進計画
- ・京都市みどりの基本計画
- ・みんなのみちづくり計画
- ・京（みやこ）の水ビジョン
- ・京都市「雨に強いまちづくり」推進方針
- ・京都市水共生プラン
- ・京都市細街路対策指針
- ・歴史都市京都における密集市街地対策等の取組方針
- ・京都市空き家等対策計画

③ 共創による地域防災力の強化

被災後の迅速な復旧や支援活動に向け、関係機関との連携の強化や市民との協働による防災活動に取り組み、市民や来訪者、行政が一体となって災害にしなやかに対応できる都市の形成を図ります。

具体的な方針

- 緊急物資などの備蓄・集積機能、広域応援の受入機能、関係機関との連携強化、ヘリコプター輸送への対応など、広域的な防災拠点機能の充実を図る
- 京都駅周辺など、人口・機能が集積するターミナルにおいては、周辺施設と一体となった防災対策の強化
- 上下水道などのライフラインの早急な復旧や、復旧までの間の代替手段の確保
- 震災をはじめとする大規模な災害による被害を軽減するために、地域の災害対応力の更なる向上、活動助成
- 歴史都市・京都のアイデンティティを継承していくために、市民とともに行う防災活動を通じて、地域コミュニティとの意思疎通を図り、被災後の復興に向けた事前の準備を推進
- 市民の市街地復興への理解と円滑な復興を進めるため、平常時から情報提供や啓発を進め、市民主体のまちづくりに対する理解を高める
- 災害等による被害を受けた場合においても、地域社会の強い絆をいかして迅速な復旧・復興を図るための事前復興の取組を進める

関連計画

- ・京都市地域防災計画
- ・京（みやこ）の水ビジョン

イ 支え合う 多彩なつながりで、安心と愛着を抱けるまち

① 多様なコミュニティ活動

住民自治の伝統を継承する地域コミュニティの絆は、平時の穏やかな暮らしの土台であると同時に、災害など有事の際にも人々の命を守る礎となります。この視点の下、地域との連携をこれからも大切にして、日頃から各地でコミュニティの醸成・維持等が図られ、地域活動が活発に展開される都市を目指すとともに、京都市と様々なかたちで関わる人同士が多彩なつながりを持ち、安心と愛着を抱きながら過ごせるまちづくりを進めます。

住宅から小規模宿泊施設への転換が相次ぎ、地域内の調和が乱されるケースなど、地域コミュニティに影響を及ぼす課題に対しても、都市計画の観点から対策を検討します。

■ 区民運動会



具体的な方針

- 地域固有の居住環境の維持・活性化を進め、多世代が安心・快適に居住し地域のコミュニティ・文化を継承
- 多様な人々の出会いや集い、交流を通じて、地域に息づくまちの資源をいかした場が、地域のまちづくりと結びつく街区などを都市計画的に捉え、新たな魅力や価値の継承・創造を目指す【再掲】